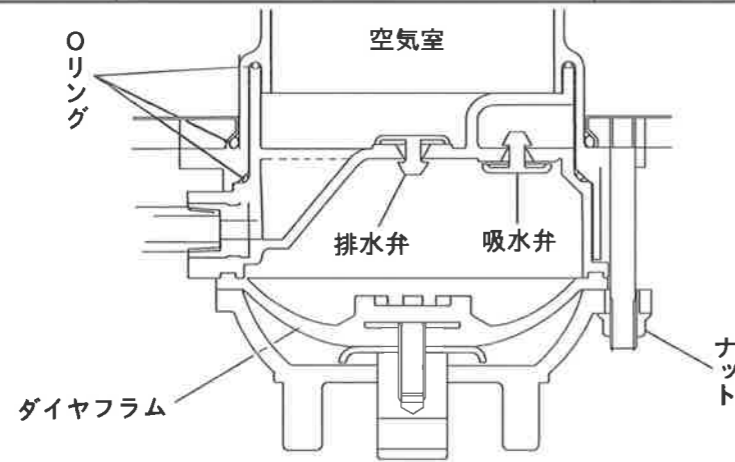


故障と修理方法

故障状態	原因	処置
水を吸わない	吸水弁の作動不良	新品と交換する
	吸水弁の密着不良	新品と交換する
	吸水弁、排水弁部のゴミの付着	取外して掃除する
圧力がかからない	排水弁の作動不良	新品と交換する
	排水弁の密着不良	新品と交換する
	吸水弁、排水弁部のゴミの付着	取外して掃除する
ダイヤフラム部からの液漏れ	締め付けナットのゆるみ	増し締めする
	ダイヤフラムの破れ	新品と交換する
接続部からの液漏れ	ねじのゆるみ パッキンの不良	増し締めする 新品と交換する
霧の状態が悪い	噴口部のゴミの付着	取外して掃除する



※上記処置を行っても直らない場合は、販売店にご相談下さい。

取扱説明書

背負人力噴霧機

用途

殺虫・消毒・殺菌・散水

ご使用前に必ず
お読み下さい

このたびは、背負人力噴霧機をお買い上げいただき、ありがとうございます。
この製品を正しく安全にご使用願うため、ここに取扱の要領を記しましたので、**ご使用前に必ずお読みになるようお願い致します。**
取扱説明書は、大切に保管し、いつでも見られるようにしておいて下さい。

▲安全にご使用いただくために必ず守って下さい

▲全般

- ・病気、病後、過労、飲酒時、睡眠不足、生理中、妊娠中など、体調がすぐれない状態で、噴霧機を使用しないで下さい。
- ・噴霧機を他人に貸す場合は、取り扱い方法を説明し、取扱説明書を読むように指導して下さい。
- ・タンクに貼ってあるラベルが見えにくくなったり、はがれた場合は貼りかえて下さい。
- ・噴霧機を改造しないで下さい。
- ・タンク内には、手を入れないで下さい。

▲農薬の取り扱い

- ・農薬取締法を遵守して下さい。
- ・農薬の使用にあたっては、農薬の容器の表示事項等をよく読んで安全かつ適正に使用して下さい。
- ・農薬は他の容器(清涼飲料水の容器等)へ移し替えないで下さい。
- ・農薬は安全な場所に鍵をかけて保管して下さい。
- ・農薬の容器は、十分に洗浄した後、農薬メーカーの指示に従い適正に処分して下さい。
- ・ガソリン、灯油、シンナー、ベンジン、塗料、強酸性、強アルカリ性の薬品等は使用しないで下さい。

▲作業前

- ・作業前に、各接続部のねじのゆるみがないか確認して下さい。
- ・噴霧ホースの亀裂、摩耗、膨れ、背負バンドの破損など、異常のないことを確認して下さい。

▲作業中

- ・農薬の調製又は噴霧を行うときは、散布液の吸い込みや付着を防ぐため、必ずゴム手袋、防護マスク、保護メガネ等を着用し、危険がない皮膚の露出しない服装で作業を行って下さい。
- ・作業中に、めまい、頭痛が生じたり、又は気分が少しでも悪くなった場合は、安静にし医師の診断を受けて下さい。
- ・ハウス内での作業は、換気をして下さい。
- ・噴霧作業は、河川、水道水源、池、湖、沼などを汚染しないよう配慮して下さい。
- ・噴霧作業時は、子供や関係のない者が近づかないよう配慮するとともに、居住者、通行人、家畜等に被害を及ぼさないよう注意をして下さい。
- ・噴霧機を固定、又は地面において、無理に圧力をかけないで下さい。
- ・農薬は残らないよう調整し必ず使い切って下さい。

▲作業後

- ・作業後は、手足、全身を石鹸でよく洗うとともに目を水洗いし、うがいをして下さい。
- ・作業後は衣服を着替えて下さい。
- ・噴霧機等の洗浄水は、河川、水道水源、池、湖、沼、下水等に流れ込まないよう、適正に処分して下さい。
- ・噴霧機を除草剤散布に使用した後に、一般防除作業を行う場合は本機を十分に洗浄して下さい。

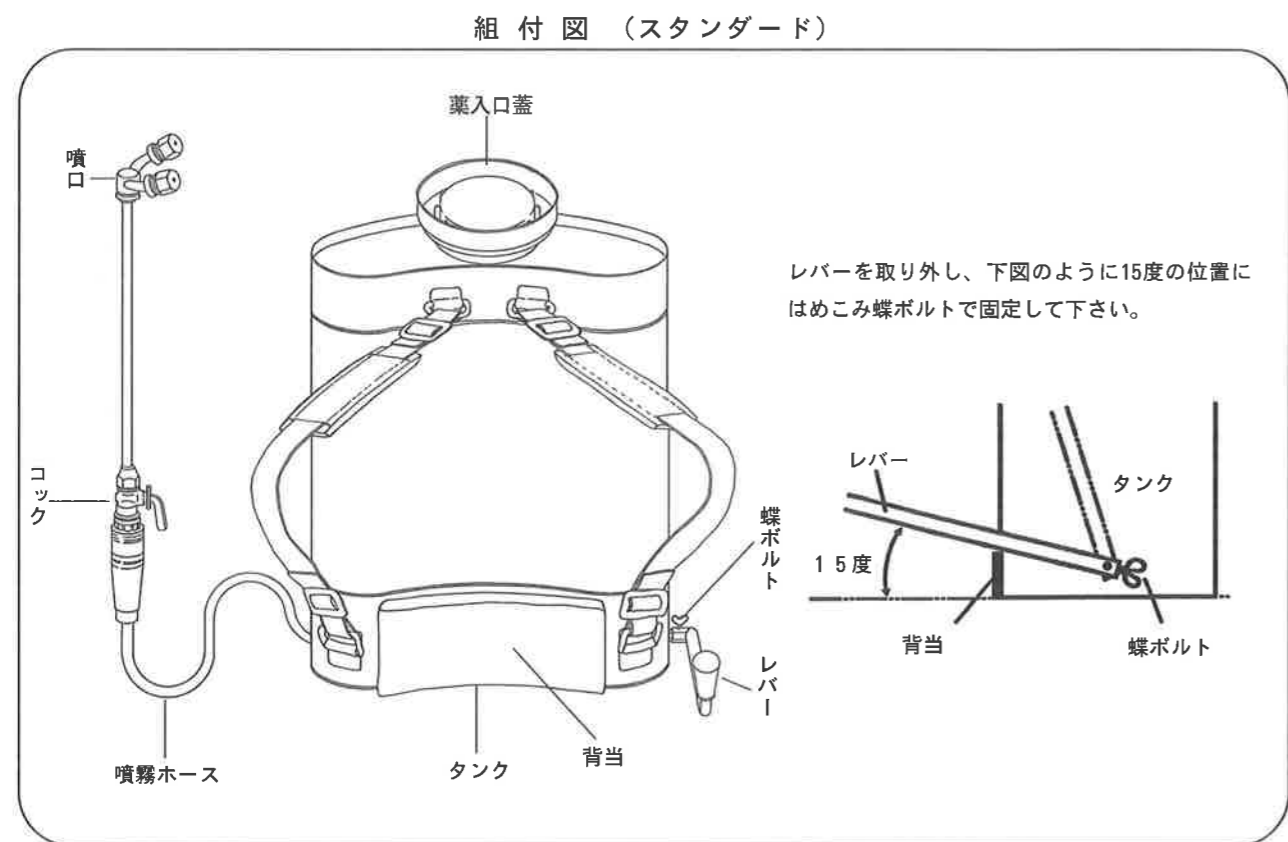
▲保管

- ・噴霧機を充分洗浄し乾燥させたあと、子供の手が届かない日陰の風通しの良い場所に保管して下さい。

使用方法

1. 部品の組付け

- ・組付図のように、噴霧ホース、コック、噴霧管、噴口を、ねじのゆるみがないように締め付け、噴霧機本体に組付けます。
- ・レバーを一度取外し、組付け図のように15度位の位置にはめこみ、蝶ボルトで固定して下さい。
- ・背負バンドの長さを調節して下さい。



- ▲作業前に、各接続部のねじのゆるみがないか確認して下さい。
- ▲噴霧ホースの亀裂、摩擦、膨れ、背負バンドの破損など、異常のないことを確認して下さい。

2. 清水での作動確認

- ・コックを閉の状態にして下さい。
- ・薬入口蓋を外して清水を入れます。
- ・レバーを上下に作動させ、圧力がかかりレバーが重くなったら、コックを開にし噴霧させます。
(無理に圧力をかけないで下さい。)
- ・本機及び接続部等の異常の有無を点検、確認して下さい。
- ・タンクの清水を捨て、レバーを作動し空気室の水を排出させます。
(噴口から霧が出なくなるまで排出する)



3. 薬液の入れ方

- ・コックを閉の状態にして下さい。
 - ・農薬を他の容器で調整(農薬メーカーの希釈倍数に従う)し、タンクに入れて下さい。
(タンク内で調整する場合は、最初に水を所要量の半分ほど入れてから農薬を入れ、残りの水を入れて下さい。)
 - ・薬入口蓋を締めて下さい。
- ▲農薬の使用にあたっては、農薬の容器の表示事項等よく読んで安全かつ適正に使用して下さい。

4. 運搬及び取り扱い

- ・タンクに農薬を調整後、運搬する場合は、本機を傾けないで下さい。
(タンクを傾けると農薬が漏れる場合があります。)
- ・噴霧機を落したり、ぶついたりすると、簡単にヘコみますので取り扱いには注意して下さい。

5. 噴霧作業

- ・噴霧機を背負い、レバーを上下に作動させ、圧力がかかりレバーが重くなったらコックを開にし噴霧作業を始めます。噴霧の状態に合わせてレバーを作動させて下さい。
 - ・噴霧作業時は、噴口を人に絶対向けないように注意して下さい。
- ▲散布液の吸い込みや付着を防ぐため、必ずゴム手袋、防護マスク、保護メガネ等を着用し、危険がない皮膚の露出しない服装で作業を行って下さい。
- ▲噴霧作業時は、子供や関係のない人が近づかないように配慮するとともに、居住者、通行人、家畜等に被害を及ぼさないように注意して下さい。

6. 使用後の手入れ

- ・タンク内の残液を、清水できれいに洗い流して下さい。
- ・タンクに清水を入れレバーを上下に作動させ、空気室、噴霧ホース、コック、噴霧管、噴口に残った薬液を洗い流して下さい。
- ・タンク内の水を捨て、レバーを作動させ空気室、噴霧ホース、コック、噴霧管、噴口内部の水を噴口から霧が出なくなるまで排出して下さい。
- ▲タンク内に手を入れて洗浄したり、持ったりすると、手を切るおそれがありますのでタンク内には手を入れしないで下さい。
- ▲洗浄水は、河川、水道水源、池、沼、下水道に流れ込まないよう、適正に処分して下さい。
- ▲噴霧機を除草剤散布に使用した後に、一般防除を行う場合は本機を十分に洗浄して下さい。

7. 保管

- ・噴霧機を充分洗浄し乾燥させたあと、子供の手の届かない日陰の風通しの良い場所に保管して下さい。